

在留カード偽造か 中国籍の男を逮捕 拠点摘発、不法残留の疑い

有料記事

2019年1月29日05時00分

東京入国管理局は28日、埼玉県川口市のマンションの一室から、外国人の在留資格を証明する「在留カード」の偽造前の白無地カードと、傾けると文字などが浮き上がるホログラムを計約4600枚押収した、と発表した。警視庁は、この部屋に住んでいた中国籍の男（27）を同日、出入国管理法違反（不法残留）の疑いで逮捕。男は金銭目的で偽造し、顧客に送っていたことを認めているという。

警視庁や東京入管によると、男の逮捕容疑は留学の在留資格が切れた昨年5月15日以降も、日本に滞在したというもの。東京入管は今月11日、この部屋を同法違反（在留カード偽造原料準備）の疑いで家宅捜索し、白無地カードと、偽造防止に使われるホログラムをそれぞれ約2300枚押収した。偽造在留カードをめぐるのは過去最大規模の押収量といい、警視庁などはこの部屋が偽造の拠点だったとみている。

部屋からは中国やインドネシア、ベトナム国籍の人物名義の偽造在留カード14枚や顔写真などのデータが入ったパソコンやプリンターなども見つかった。顧客データも押収したという。

偽造在留カードの所持や提供などの検挙件数は増加傾向。警察庁によると、昨年は10月末時点で523件で過去最多だった2017年の400件を上回った。東京入管の担当者は「在留カードは在留管理体制の中核。今後、外国人が増える中で対策強化が必要だ」と話す。（荒ちひろ、浦野直樹）

朝日新聞デジタルに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.